

女性障害者3割セクハラ被害

差別禁止法案反映へ 内閣府あす聞き取り

障害者問題に取り組む女性らの団体が「障害者であり、女性であるため生きにくいと感じた経験」について障害のある女性87人に尋ねたところ、3分の1を超える31人がセクシュアルハラスメント（性的嫌がらせ）を挙げた。夫が友人から「もっといいのがいただろうに」と言われたなど差別発言も目立つ。内閣府の作業部会は11日に団体関係者のヒアリングを行い、来年の通常国会への提出を目指す障害者差別禁止法案の作成に生かしたい考えだ。【野倉恵】

東京の市民団体「DPI女性障害者ネットワーク」（南雲君江代表）が昨年5～11月、他団体などを通じて調査。75人が書面で答え、16人が聞き取りに応じた。4人は両方に答えた。北海道から沖縄県

在住の20～70代で、肢体不自由35人▽視覚障害24人▽精神障害10人▽難病9人▽聴覚障害5人―など。複数回答で計227件の具体的な体験が寄せられ、性的被害については31人が45件を挙げた。最もひどいケースでは性交渉を強要されていた。医療現場は16件で、産婦人科で内診台のカートテンを閉めるような頼んだ視覚障害のある女性30代が、スタッフから「見えないからいいじゃない」と言われた例も。仕事を巡る差別19件の他、障害者用トイレが男性用にしかないなど日常生活の困

■ 主な回答

- ・母親の恋人から入浴介助される際、胸などを触られたが、母に言っても信じてもらえなかった（30代、肢体不自由）
- ・タクシー運転手が「目が見えなくてかわいそう。女にしてやりてえ」といい、モーターに連れ込もうとした（50代、視覚障害）
- ・一人で営業するしんきゅう院で、初めて来た男性患者が入るなり全裸になった。以後、男性患者が怖い（50代、視覚障害）
- ・夫が友人から「もっといいのがいただろうに」と言われる。弟が私の障害を理由に結婚を断られたと聞いた（50代、知的障害）
- ・10代だった頃、不妊手術を受けさせられた。子供を産めないことが原因で離婚し、再婚の夫も家を出た（60代、精神障害）
- ・初めて出産した時、見舞いに来る人から必ず「耳は大丈夫？」「聞こえる子でよかったね」と言われた（30代、聴覚障害）
- ・出産した健常者の同僚は正職員で職場復帰したのに、自分はパートにされた（40代、視覚障害・難病）

りごともあり、差別を受けたことはないと答えたのは1人だった。同団体は「障害のある女性は二重の意味で差別や苦痛を受ける場合が少なくない。広く掘り起こすことが法案作成に向けても大切だ」と指摘している。

実態知らせるメッセージに

回答者の一人、森崎美さん(38)は兵庫県

たつの市は脳性まひで肢体不自由の障害がある。女の子2人を育てるシングルマザー。「障害者は孤立しやすく、特に女性は恥ずかしさもあり被害は埋もれている」と話す。勤務していたJR西日本の上司の男性から性交渉を強要されたとして男性らに損害賠償を求め、大阪高裁で昨年11月、逆転勝訴した森崎さん。被害を受けた後、リストカットしたこともあるが、支援者らに支えられ、今では「こそこそ生きるのはおかしい」と実名で講演もしている。

森崎さんは「女性だから受けやすい差別が現実にはある。障害者差別禁止法ができれば社会全体にこうした被害の実態を知らせるメッセージになる」と期待している。